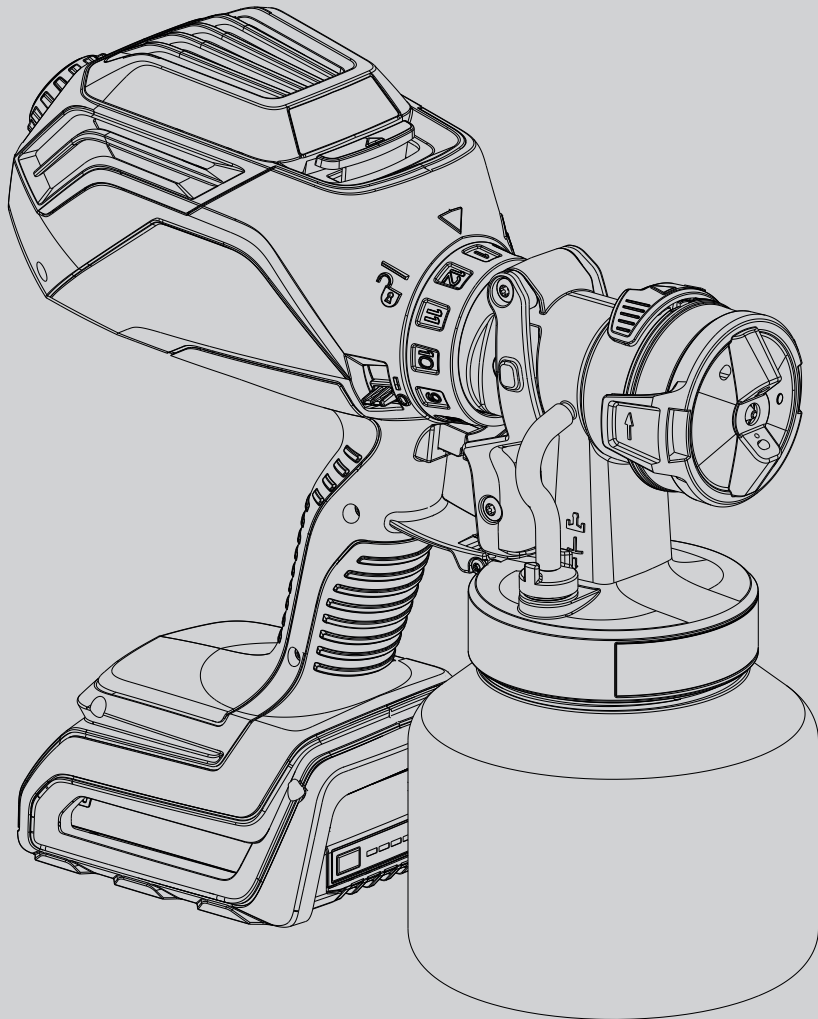


**WAGNER**



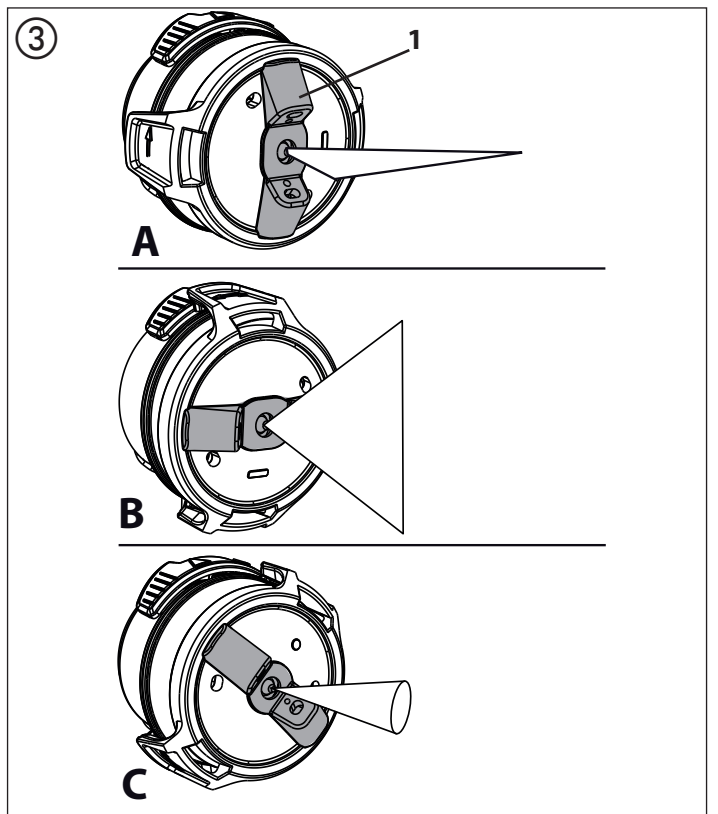
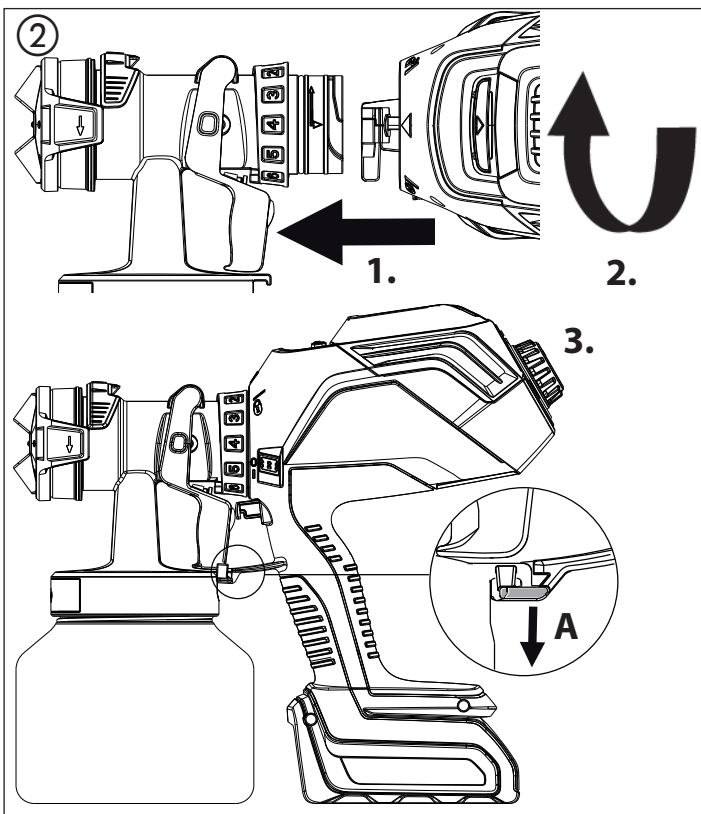
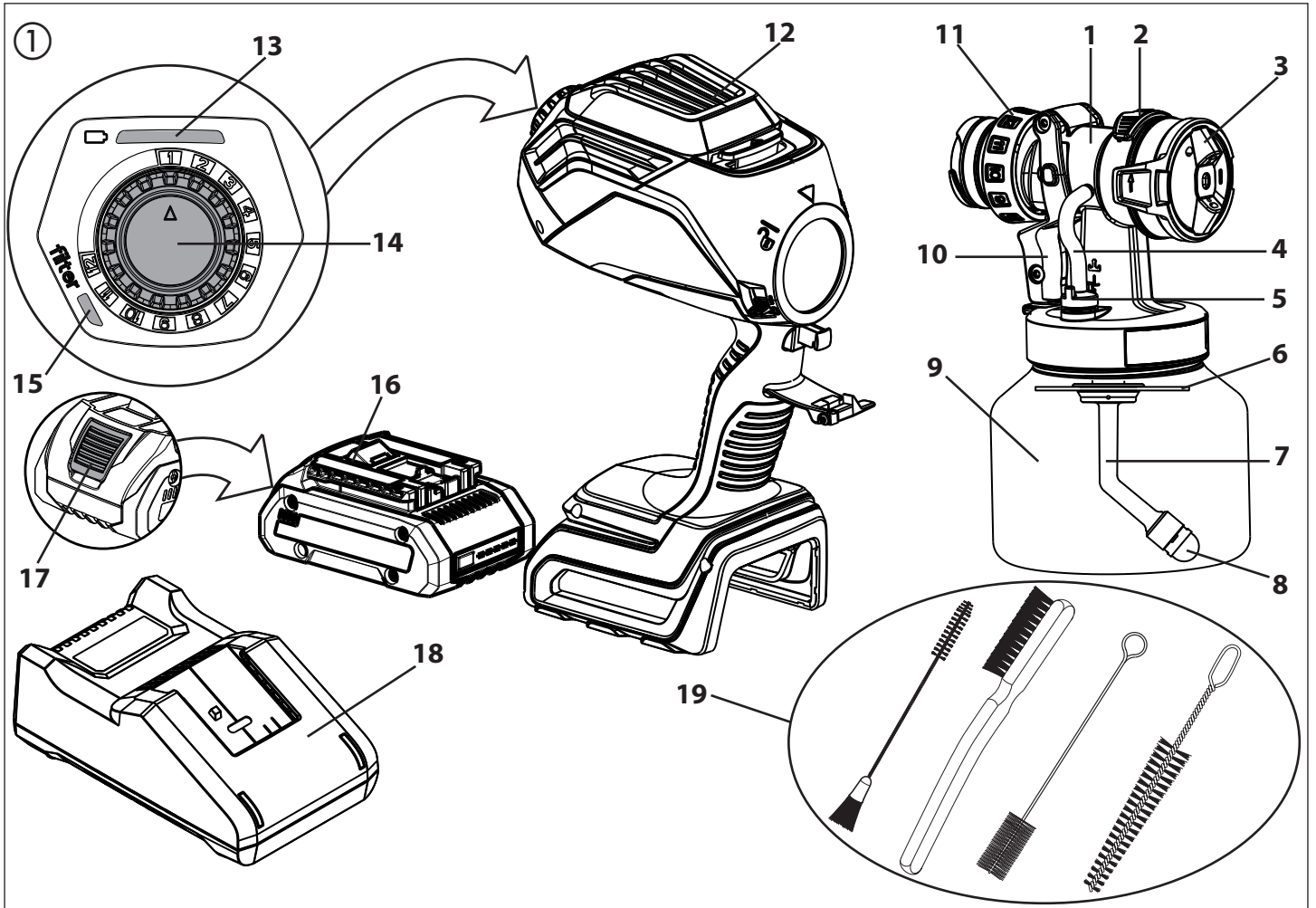
# **FINISH CONTROL 4000 18V**

## 操作説明書

JA

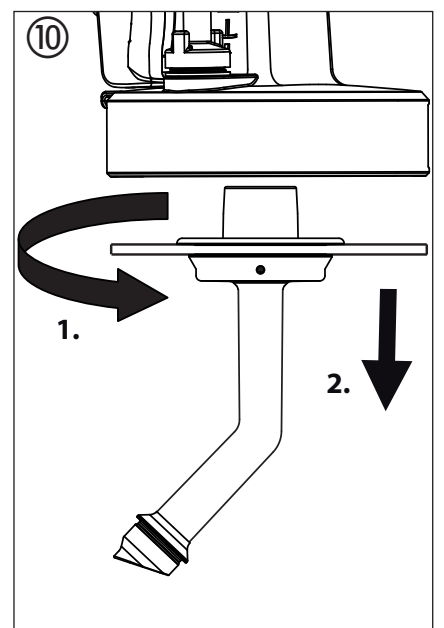
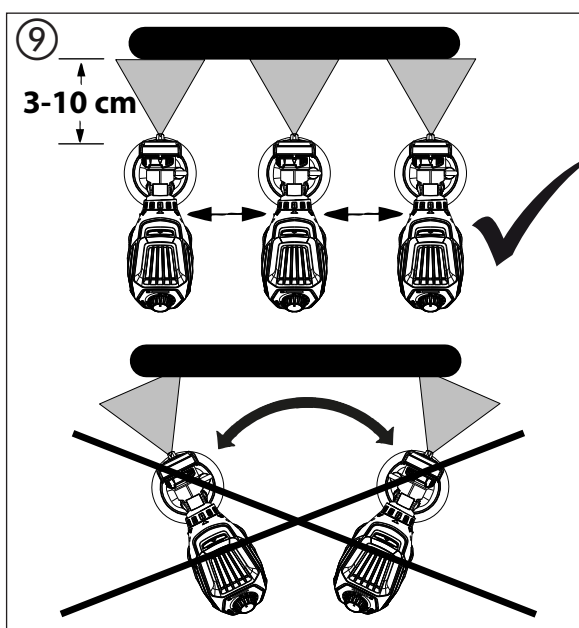
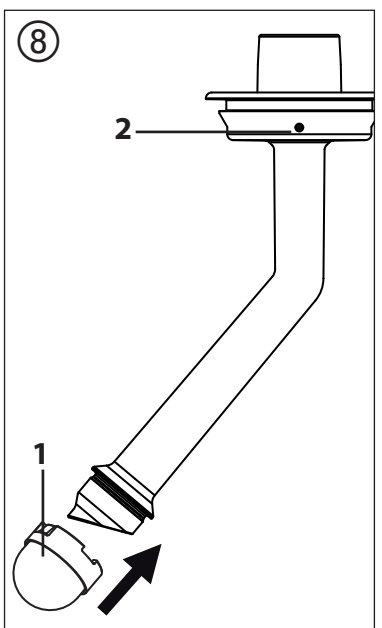
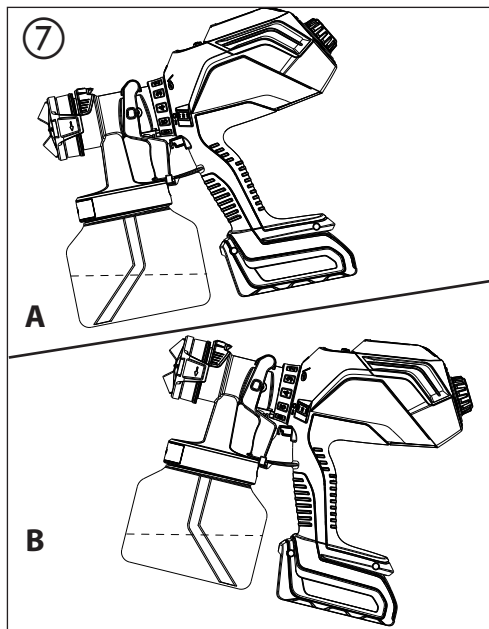
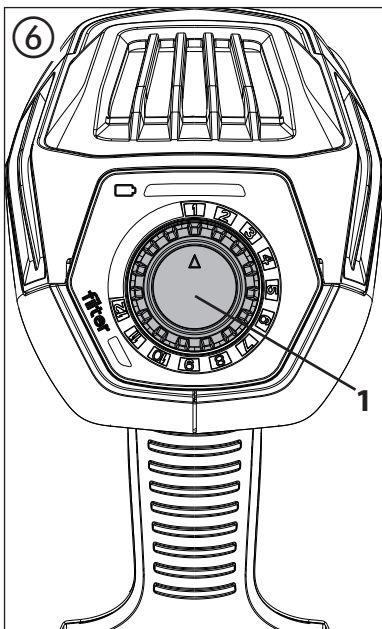
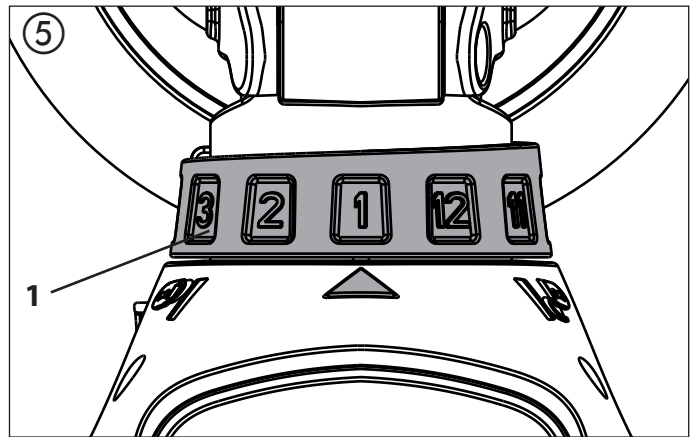
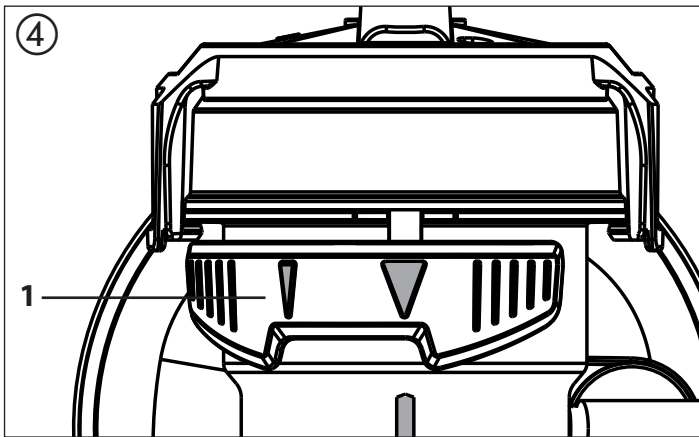
# FinishControl 4000 18V

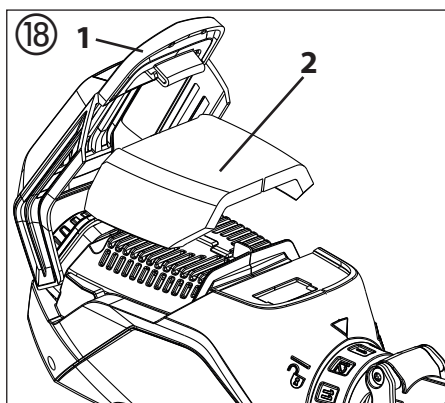
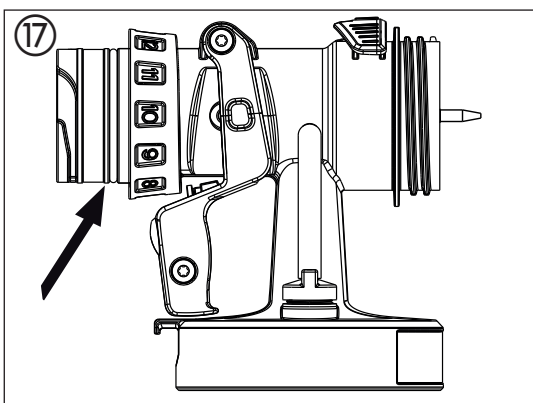
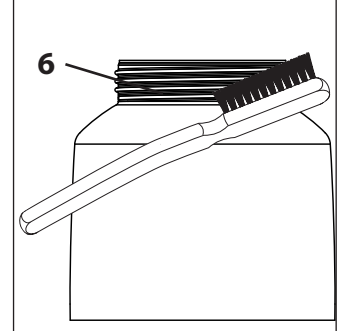
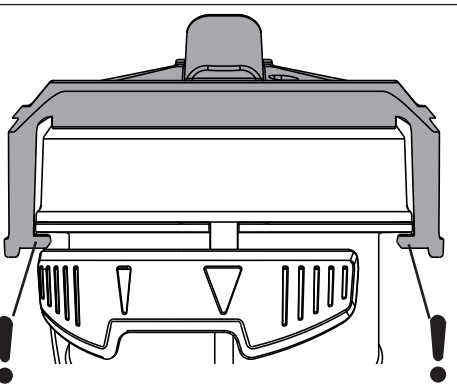
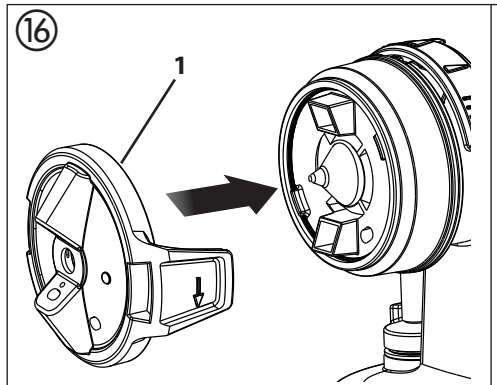
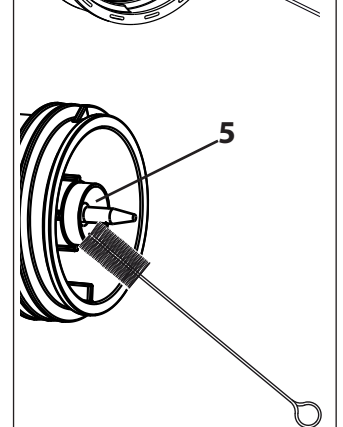
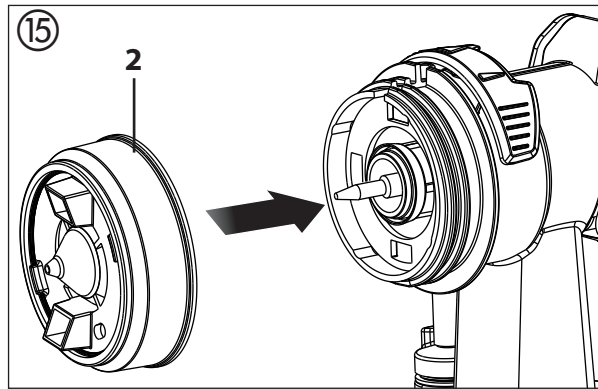
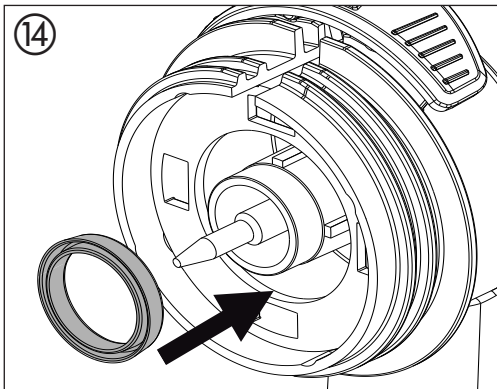
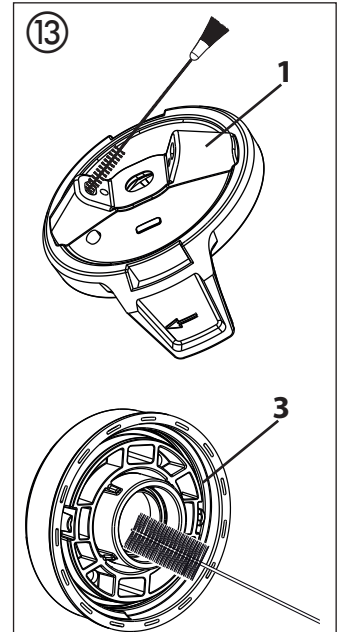
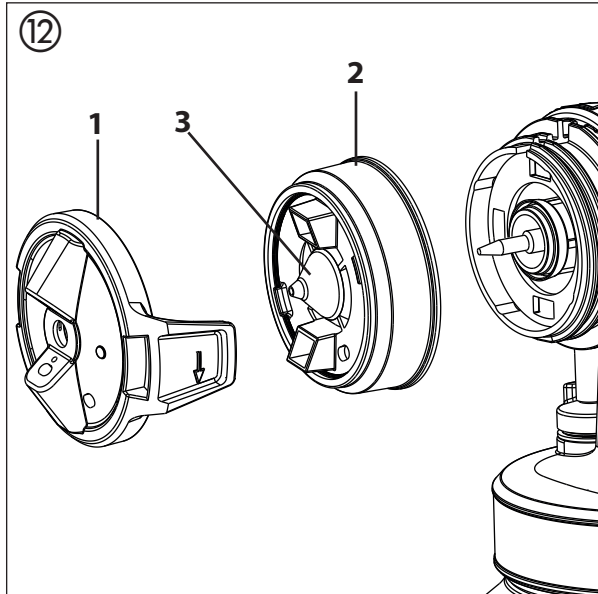
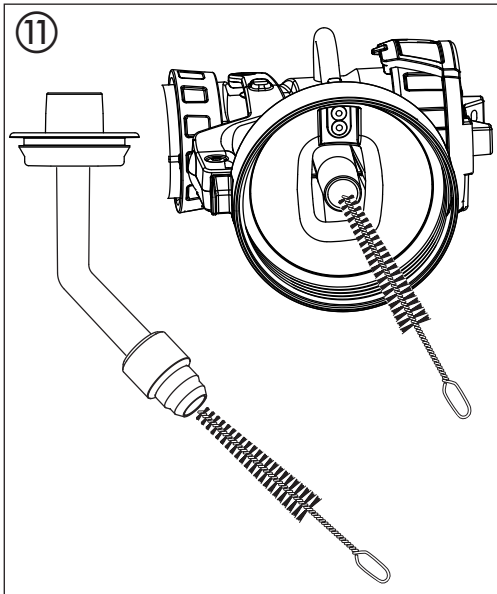
**WAGNER**



# FinishControl 4000 18V

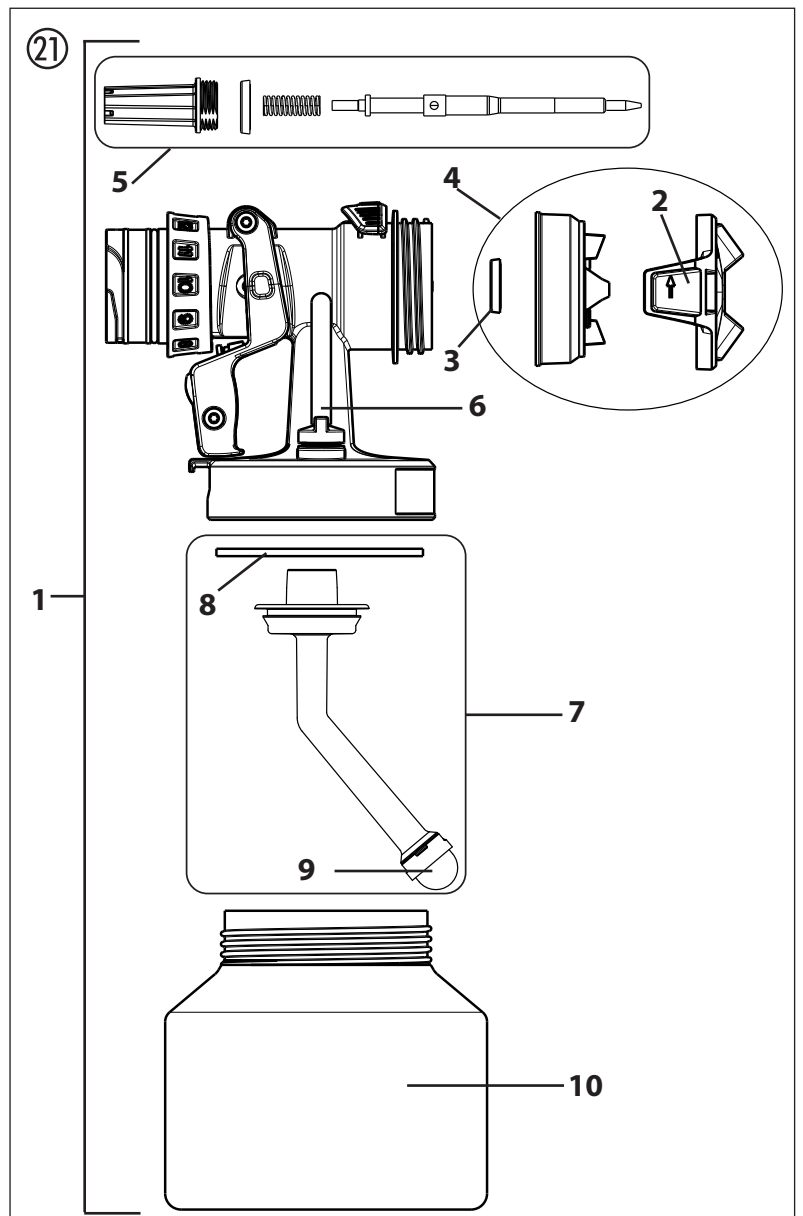
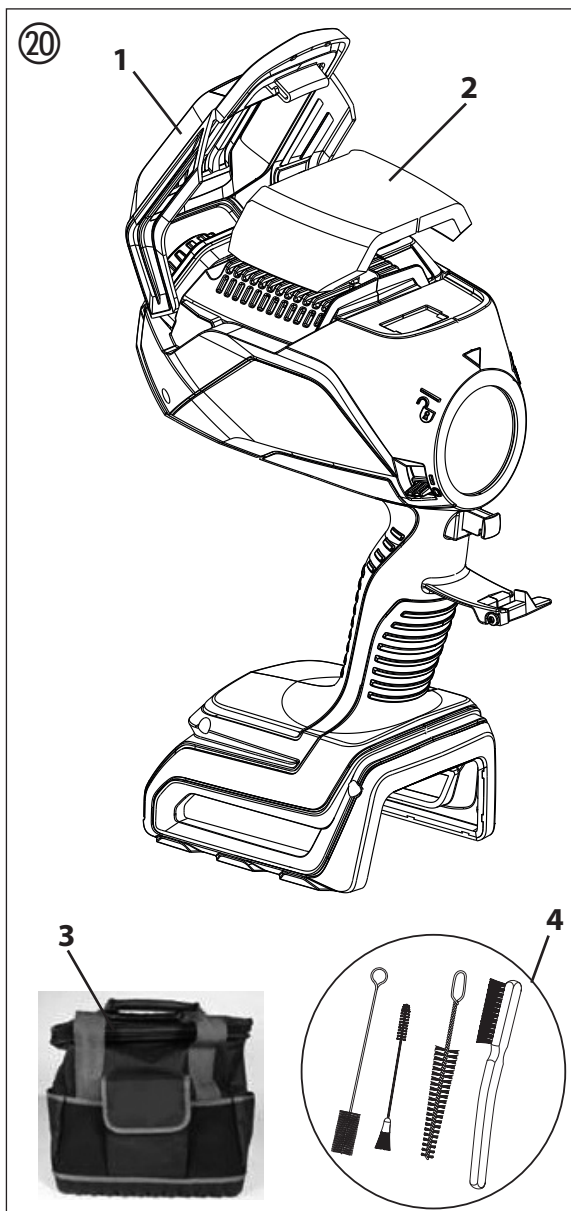
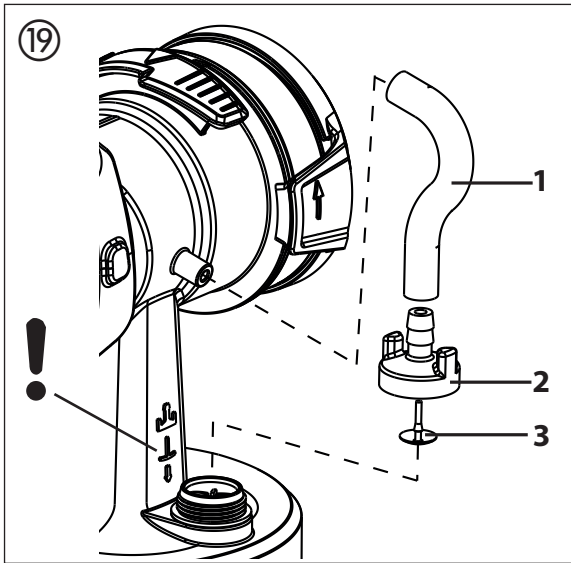
**WAGNER**











# FinishControl 4000 18V



## 目次

1	安全規定	1
2	説明図	5
3	WAGNER クリック&ペイントシステム	5
3.1	スプレーガンの取り外し	5
4	技術データ	6
5	XVLPテクノロジーについて	6
6	コーティング剤	6
6.1	使用できるコーティング剤	6
6.2	使用できないコーティング剤	6
6.3	対応する付属品でのみ使用できるコーティング剤	6
6.4	コーティング剤の準備	6
7	スプレーガンの調整	7
7.1	スプレーパターンの調整	7
7.2	吐出量の調整 (図5)	7
7.3	空気量の調整 (図6)	7
7.4	サクシジョンチューブの調整	7
8	充電	7
9	使用開始	8
10	塗装方法	8
11	作業の中断	8
12	運搬	8
13	使用の停止とクリーニング	8
13.1	組立	9
14	メンテナンス	9
14.1	エアフィルター	9
14.2	空気弁	9
15	トラブルシューティング	10
16	付属品と交換部品	11
16.1	付属品	11
16.2	FINISCHCONTROL 4000 (図20) の交換部品	11
16.3	ファインスプレーアタッチメント (ブラウン) 図21) の交換部品	11
	機器の点検	12
	廃棄に関する注意	12
	製造物責任に関する重要事項	12
	保証規定	12

## 記号の説明

	この記号は、使用者または機器に対する潜在的な危険性を示します。この記号の下には、怪我や機器の損傷を防ぐために重要な情報が記載されています。
	使用上のコツや、便利なヒントを示します。
	スプレー幅=ワイド (広い)
	スプレー幅=ナロー (狭い)

## 1 安全規定

**注意！** 法律で定められている規則および安全要件のすべてに従う必要があります。危険を回避するため、本操作説明書を注意深く読み、記載されている指示に従ってください。

### 1. 作業環境の安全性

- a) 作業環境は清潔に保ち、十分な照明を用意してください。整頓されていない場所、照明の不十分な場所での作業は事故につながりかねません。
- b) 本機は可燃性の液体や気体、塵のある環境で使用しないでください。本機から出た火花によって、塵や気体が引火する可能性があります。
- c) 本機の使用中は、幼児など、作業員以外の人を近づけないでください。気を取られ、操作を誤る可能性があります。

### 2. 電気の安全性

- a) 本機の電源プラグがコンセントに合っていることを確認します。適切なプラグとコンセントを使うことで、電気ショックのリスクが最小限に抑えられます。
- b) パイプやラジエーター、レンジ、冷蔵庫などの接地面に身体が触れないようにしてください。身体が接地すると電気ショックを受けるリスクが大きくなります。
- c) 本機を雨や水で濡らさないでください。本機に水が浸入すると、電気ショック・ショートのリスクが高まります。
- d) ケーブルを本機の運搬や吊り下げといった目的に使用したり、コンセントから電源プラグを抜くときに引っ張ったりしないでください。ケーブルを熱やオイル、尖った物、可動部品の近くに置かないでください。ケーブルが破損したり絡まったりすると、電気ショック・ショートのリスクが高まります。
- e) 本機を屋外で使用する場合は、必ず屋外での使用に適した延長ケーブルを使用してください。屋外での使用に適した延長ケーブルを使うことで、電気ショック・ショートのリスクが抑えられます。
- f) 本機を湿気の多い環境で使用しなければならない場合は、漏電遮断器を使用してください。漏電遮断器を使用することで、電気ショック・ショートのリスクが抑えられます。

### 3. 人体の安全

- a) 自分が行っていることに集中し、十分な注意を払って本機を扱うようにしてください。疲れているとき、またはアルコール、薬の影響下にあるときは、本機を使用しないでください。本機の使用中は一瞬の不注意が深刻な怪我につながりかねません。

- b) 個人用防護具の着用をお勧めします。防塵マスクや滑り止めの付いた安全靴、安全ゴーグルなどの個人用防護具を着用すると、怪我のリスクが抑えられます。

- c) 偶発的な作動を防止してください。電源プラグをコンセントに差し込む前に、スイッチが「オフ」(トリガーが押えられていない状態)になっていることを確認します。指をトリガーに掛けた状態で本機を運搬したり、電源につないだりすると、事故につながる可能性があります。

- d) 本機を電源につなぐ前に、作業場所から工具やスパナ等を取り除いてください。本機の近くに工具やスパナ等があると、怪我につながる可能性があります。

- e) 不自然な姿勢で作業をしないでください。不自然な姿勢でいると、予期しない状況が発生した場合に本機を適切にコントロールできません。

- f) 適切な衣服を着用してください。ゆるめの衣服や垂れ下がる装飾品を着用しないでください。髪、衣服、手袋を可動部品に近づけないでください。ゆるい衣服や装飾品、長い髪は、可動部品に巻き込まれる可能性があります。

- g) 除塵・集塵装置を取り付けることができる場合は、正しく接続し、使用する必要があります。除塵機の使用により、粉塵による危険性を低減することができます。

- h) 安全でないのに間違っただ大丈夫だと思い込まないでください。電動工具を何度も使用して習熟している場合でも電動工具の安全規則を無視しないでください。不注意に行動すると、一瞬で重傷につながる可能性があります。

### 4. 電源装置の取扱いと使用

- a) 電源に過度な負荷を与えないでください。本機に適した電源を使用してください。適切な電源を使えば、指定の出力範囲で確実に、効率よく作業できます。

- b) スイッチの故障した本機は使用しないでください。スイッチを入れたり切ったりできない本機は、危険なので修理が必要です。

- c) 本機のメンテナンスや付属品の交換を行うとき、または本機をしまうときは、必ずプラグをコンセントから抜いてください。このような安全対策を取ることで、偶発的な事故が防止できます。

- d) 使用していない本機は、子どもの手の届かない場所に保管してください。本機の操作方法に詳しくない人や、操作説明書を読んでいない人には、本機を使用させないでください。

- e) 本機のメンテナンスは、丁寧に行ってください。可動部品がスムーズに作動すること、部品が破損していないこと、部品に本機の機能に影響するような損傷がないことを確認してください。損傷がある部品を修理、または交換してから、本機の使用を再開します。事故の多く

## 安全規定

は、不適切なメンテナンスに起因しています。

- f) 切削工具は鋭利に、清潔に保ってください。刃先が鋭く、丁寧に手入れされた切削工具は、詰まりが少なく、ガイドもしやすくなります。
- g) 本機、付属品、交換部品は、その機種に規定されたものを、操作説明書に従って使用してください。その際、必要な作業と作業環境に注意を払ってください。また、規定されている以外の用途に本機を使用すると、危険な状況を招く可能性があります。
- h) グリップとグリップ面は油脂が付いていない、清潔で乾燥した状態に保ってください。グリップやグリップ面がすべりやすいと、予期しない状況で電動工具を安全に操作したり、制御したりできなくなります。


## 5. バッテリーツールの使用と取り扱い

- a) 充電は、メーカーが推奨する充電器のみを使用してください。特定の種類のバッテリー用に設計された充電器を他のバッテリーに使用すると、火災の原因となることがあります。
- b) この目的のために意図されたバッテリーのみを電動工具に使用してください。他のバッテリーを使用すると、けがや火災の原因となることがあります。
- c) 未使用のバッテリーは、クリップ、コイン、鍵、釘、ネジなど、接点がブリッジする恐れのある小さな金属類に近づけないでください。バッテリーの接点が短絡すると、やけどや火災の原因になります。
- d) 使い方を誤ると、バッテリーから液体が漏れることがあります。液体に触れないようにしてください。誤って接触した場合は、水で洗い流してください。液体が目に入った場合は、さらに医師の手当てを受けてください。バッテリー液が漏れると、皮膚の炎症や火傷の原因となることがあります。
- e) 損傷したり、変質した電池は使用しないでください。損傷したり変質した電池は、予期せぬ動作で火災、爆発、けがの原因となることがあります。
- f) 電池を火や過度の高温にさらさないでください。火気があつたり、130℃以上の高温になったりすると、爆発の恐れがあります。
- g) 充電に関するすべての指示に従い、取扱説明書に指定された温度範囲外では、絶対にバッテリーやバッテリーツールを充電しないでください。不適切な充電や許可された温度範囲外での充電は、バッテリーが壊れて、火災の危険性を高めることがあります。

## 6. サービス

- a) 本機の修理は、必ず資格を持った専門技術者が正規交換部品を使って行うようにしてください。そうすることで、本機の安全性が保たれます。

- b) バッテリーに異常があれば、製造元に問い合わせてください。

 塗装機器の安全上の注意

火災および爆発の危険

危険区域では、引火源による火災および爆発の危険があります。

電気式スプレー自体にも引火源(スイッチの作動時やプラグの挿入/引き抜き時にモーターから出る火花、静電気によってスプレーガンから出る火花)があります。

-> 本機を、爆発防護の法令で規制される施設で使用しないでください。

-> 可燃性のコーティング剤や洗剤を使用しないでください!

-> 本機の近くにある塗料または溶剤の容器は、必ず蓋・栓をしっかりと閉めてください。

-> 危険区域に、火や、火を付けたタバコ、赤熱したワイヤー、高温の表面、研削切断による火花などの引火源がないことを確認してください。

-> 可燃性の溶剤で本機を洗浄する場合は、バッテリーを取り外してブラシと布で十分に洗浄してください。作業を再開する時は、溶剤が本機から完全に拭き取られていることを確認してください。洗浄した部品は十分に乾かしてから取り付けてください。

2. 怪我の危険性があります!  
スプレーガンを自分や他の人、動物に絶対に向けないでください。
3. 塗装作業中は、保護マスクを着用してください。使用者に保護マスクを提供してください。  
業務上疾患を予防するため、準備や作業、機械の洗浄を行う際は、使用している塗料、溶剤、洗剤のメーカーの処理規定に従ってください。皮膚を保護するため、防護服や安全ゴーグル、手袋、場合によっては皮膚保護クリームが必要です。
4. 屋内、屋外に関わらず、作業場所内での溶剤蒸気の発生に注意してください。屋内で作業する時は作業場所が十分に換気されていることを確認してください。
5. 注意: 本機は、防水設計ではありません。雨の中での使用や、水を掛ける、液体に浸すなどの行為は、おやめください。湿った場所、濡れた場所で本機を使用しないでください。
6. 注意! ノズルシールが外れている、損傷している、もし



くは間違っ取り付けられている状態で本機を使用しないでください。ノズルシールが外れている、損傷している、もしくは間違っ取り付けられていると、材料が装置に逆流し、電気ショックのリスクが高まります。毎作業前に必ずノズルシールを確認してください。


7. 本機は、チェックバルブセットが正常に機能する状態では使用できません。塗料が通気ホース(図1の4)内を上がってきた場合は、本機の使用を中断してください! 通気ホース、チェックバルブキャップ、弁を取り外し、洗浄し、必要なら弁を交換してください(14.2を参照)。
8. 充填したスプレーガンは、横にして置かないでください。
9. 排気設備は、地域の規定に従って、使用者側で用意します。
10. コーティングする被塗物は必ずアースを取ってください。
11. スプレーされた塗料から生じる危険性に配慮し、容器に貼られているラベルや塗料のメーカーによる注意事項をよく読んでください。
12. 危険性を把握していない塗料は、使用しないでください。
13. スプレーアタッチメントを取り外す前に、容器を回して緩め、圧力を抜いてください。
14. 本機の作業をする前に、バッテリーを取り外してください。
15. 電気機器の処理または修理は、電気技術者だけが実行できません。操作説明書に注意事項が記載されている場合でも、これらの作業は電気技術者に依頼してください。取り付けが不適切であった場合、保証対象外になります。
16. 製造元が承認した部品のみを使用してください。最小限の技術要件を満たさない部品を使用する場合、使用者はすべてのリスクとすべての責任を負います。



## 充電器とバッテリーの安全に関する注意事項



本機は、BOSCH ProCore 18Vバッテリー (4.0Ah以上) と、その充電器のみ使用可能です。バッテリー電圧は、充電器のバッテリー充電電圧と一致させる必要があります。非充電式電池を充電しないでください。充電すると、火災や爆発の危険があります。

-  充電器は屋内のみで使用し、湿気から遠ざけてください。電気製品に水が入ると、感電の危険が高まります。
- 充電器を清潔に保ってください。汚れていると感電の危険があります。
- 毎回使用する前に、充電器、ケーブル、プラグを確認してください。破損に気づいた場合は、充電器を使用しないでください。充電器は自分で開けないでください。修理は有資格者が行い、純正のスペアパーツのみを使用してください。充電器、ケーブル、プラグが破損していると、感電の危険が高まります。
- 可燃性の表面 (紙、繊維など) の上や可燃性の環境では、充電器を操作しないでください。充電中に充電器が発熱し、火災になるおそれがあります。
- バッテリーは部分充電された状態で出荷されます。バッテリーの性能を十分に発揮させるために、最初に使用する前に充電器でバッテリーを完全に充電してください。
- バッテリーはメーカー品以外は使用しないでください。これは、危険な過負荷からバッテリーを保護する唯一の方法です。
- バッテリーはお子様の手の届かないところに保管してください。
- バッテリーを開けないでください。短絡する恐れがあります。
- バッテリーの破損や不適切な使用により、蒸気が漏れることもあります。新鮮な空気を吸い、それでも体調が悪い場合は医師に相談してください。蒸気は呼吸器官を刺激することがあります。
- バッテリーに欠陥がある場合、液体が漏れて周囲のものを濡らすことがあります。該当する部品を点検してください。その部品を清掃するか、必要に応じて交換してください。
- バッテリーは、釘やドライバーなどの鋭利なもの、または外力によって破損することがあります。内部短絡が発生し、バッテリーが燃えたり、煙が出たり、爆発したり、過熱したりする恐れがあります。
- 損傷したバッテリーは絶対に自分でメンテナンスしないでください。バッテリーに異常があれば、製造元に問い合わせてください。
- バッテリーを熱から保護し、例えば、日光に晒され続けることや火気、汚れ、水、湿気からも保護してください。爆発やショート of の危険があります。
- バッテリーは、周囲温度  $-20^{\circ}\text{C}$  ~  $+50^{\circ}\text{C}$  の範囲でのみ使用・保管してください。夏場など、バッテリーを車内に放置しないでください。温度  $0^{\circ}\text{C}$  未満では、ユニットにより性能が制限される場合があります。
- 充電は周囲温度  $0^{\circ}\text{C}$  ~  $+35^{\circ}\text{C}$  の場所で行ってください。温度範囲外で充電すると、バッテリーが破損したり、火災の危険性が高まったりすることがあります。

- リチウムイオンバッテリーは、危険物に関する法規制の要件に従います。バッテリーは、ユーザーによる陸上輸送であれば、特に必要なく輸送することができます。第三者が輸送する場合 (例: 航空輸送、貨物輸送)、梱包およびラベル付けに関する特別な要件を遵守する必要があります。この場合、梱包を準備する際に、危険物の専門家に相談する必要があります。バッテリーの輸送は、ケーシングが損傷していない場合にのみ行ってください。開いている接点にテープを貼り、電池が梱包の中で動かないように梱包してください。また、その他の国の規制も遵守してください。

## 2 説明図(図1)

番号 名称	番号 名称
1 ファインスプレーアタッチメント (標準アタッチメント)	12 エアフィルターカバー
2 スプレー幅調整レバー	13 バッテリーインジケーター
3 エアーキャップ (作業方向の調整用)	14 空気量コントローラ
4 通気ホース	15 エアフィルターインジケーター (エアフィルターが詰まると赤く点灯)
5 弁	16 バッテリー (2個)
6 容器シール	17 バッテリーロック
7 サクションチューブ	18 充電器
8 サクションチューブファインフィルター (赤)	19 洗浄ブラシ (4個)
9 容器	
10 トリガースイッチ (タービンの始動→塗料スプレー)	
11 吐出量コントローラ	

## 3 WAGNER クリック&ペイントシステム

Wagner クリック&ペイントシステムでは、スプレーアタッチメントをすばやく簡単に交換できます。そのため、洗浄せずに塗料をすばやく替えることができ、塗料の種類に合ったツールで塗装ができます。

以下のスプレーアタッチメントを用意しています。

スプレーアタッチメント	適用範囲
スタンダードスプレー (イエロー) 注文番号 2430386	スリットノズル(4.1mm)と1000mlのアルミ容器が付いたスプレーアタッチメント。中粘度から高粘度までの塗料に対応しています。
ファインスプレー (ブラウン) 注文番号 2430385	ラウンドノズル(1.8mm)と1000mlのアルミ容器が付いたスプレーアタッチメント。低粘度から中粘度の塗料に最適です。
ウォールスプレー (ホワイト) 注文番号 2430387	スリットノズル(4.1mm)と1400mlプラスチック容器が付いた内壁用塗料用スプレーアタッチメント。水性の高粘度材料 (内壁用塗料など) に適しています。


### 3.1 スプレーガンの取り外し

組み立ては、2つの矢印の先が重なるようにスプレーアタッチメントをFC4000に挿入します。

FC 4000を矢印の方向に90度回転させ、音がカチッと鳴ってはまるまで回します。(図2)

スプレーアタッチメントを取り外すには、トリガーの下にあるストッパー (図2のA) を押し下げ、スプレーアタッチメントを90度反転させます。

## 4 技術データ

バッテリー (ProCore 18 V, 4,0 Ah)	リチウムイオン、 18 V  , 4,0 Ah
充電器 (GAL 18V-40): 入力電圧 出力電圧 充電電流	100 V~, 50-60 Hz; 14.4-18 V 4.0 A
保護クラス (充電器)	□/II
充電時間 (バッテリー 18 V, 4,0 Ah):	約 48 分 (80%), 65 分 (100%)
騒音レベル:*	85 dB (A)
重量 バッテリー 総重量 (バッテリー+本体)	0,55 kg 1,84 kg

\* 測定方法は EN 62841-1 に準拠

## 5 XVLPテクノロジーについて

XVLP (Extra Volume Low Pressure) は、多量の空気を使い、空気圧を抑えた低圧スプレー技術です。この技術の特長は、スプレーミストの発生量が少ない点です。そのため、マスキングの手間が最小限に抑えられます。従来のコーティング塗装に比べ、経済的で、塗装面の質が高く、同時に環境に優しい技術です。

### 機能内容

スプレーガン内で、この空気の一部を使い、容器が加圧されます。この圧力によってコーティング剤がサクシオンチューブを通してノズルへと運ばれ、残りの空気と共に噴霧されます。

作業に必要な設定 (吐出量など) は、スプレーガン本体で簡単に調整できます。

### 適用範囲

FC 4000 は最大 50 m<sup>2</sup> までの小～中規模作業を目的として設計されています。

## 6 コーティング剤

### 6.1 使用できるコーティング剤

弱溶剤系仕上げ塗料と水性仕上げ塗料  
ステイン、防水塗料、クリアコート、合成樹脂塗料、アルキド樹脂、下塗り塗料、暖房機用塗料、ハンマートーン塗料、さび止め塗料、等


### 6.2 使用できないコーティング剤

強い研磨効果を持つ成分を含んだ塗料、砂状塗料、苛性ソーダ、酸性のコーティング剤  
可燃性のコーティング剤  
二液型塗料で可使時間の短い塗料

### 6.3 対応する付属品でのみ使用できるコーティング剤

内壁用塗料

### 6.4 コーティング剤の準備

	コーティング剤の容器や包装材、または同梱の資料に記載されている取扱上の注意を参照してください。
---	---

#### コーティング剤の清浄度:

ファインスプレーシステムが正常に機能するためには、コーティング剤に混入物がないことが絶対的条件となります。混入物が混じっている可能性がある場合は、コーティング剤を細かいふるいにかけてからご使用ください。



## 7 スプレーガンの調整

### 7.1 スプレーパターンの調整

注意: 調整を行っている間は、絶対にトリガーを引かないでください。

エアキャップ(図3、1)を回すことで、3種類のスプレー噴射形状を設定することができます。

i

エアキャップは矢印方向にだけ回してください。そうしないと、ユニオンナットが緩んでしまう可能性があります。

- A 水平方向のフラットスプレー → 縦長の塗装面に
- B 垂直方向のフラットスプレー → 横長の塗装面に
- C ラウンドスプレー → 隅とかど、なかなか手の届きにくい個所向け

また、調整レバー(図4の1)を使って、スプレーの幅を広くしたり(▶)狭くしたり(◀)できます。

### 7.2 吐出量の調整(図5)

吐出量は、吐出量コントローラ(図5の1)を回転させることで、1(最小)から12(最大)の間に設定できます。

### 7.3 空気量の調整(図6)

空気量コントローラ(図6の1)を時計回りに回すと空気量が増え、反時計回りに回すと空気量が減ります(スプレーガン本体にある矢印を参照)。

i

空気量と吐出量を正しく調整することで、最適な霧化と作業スピードを得られます。また、それらの調整は塗料飛散の減少にも重要です。

### 7.4 サクションチューブの調整

サクションチューブが正しい位置にあれば、効率よく塗料を使用することができます。

床と水平に置いた被塗物を塗装する場合:  
サクションチューブを前に回します。(図7A)

頭上の被塗物を塗装する場合:  
サクションチューブを後ろに回します。(図7B)

## 8 充電

電源に接続する前に、電源が充電器の銘板に記されている指定値と一致することを確認してください。

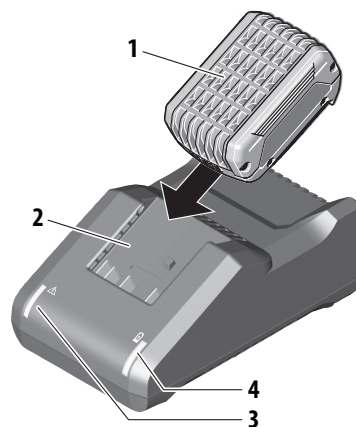
### インジケータランプの説明

バッテリー(1)を充電器(2)に挿入すると、緑のインジケータランプ(4)が「点滅」を開始します。これは、バッテリーが充電中であることを示しています。

緑色のインジケータランプ(4)が常に点灯している場合は、バッテリーが完全に充電されていることを示しています。

赤色のインジケータランプ(3)が常に点灯している場合は、バッテリーの温度が許容範囲(0°C~45°C)外であることを意味します。適正温度範囲になると、自動的に充電が開始されます。

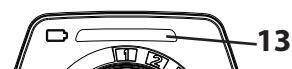
赤いインジケータランプ(3)が点滅する場合は、充電器またはバッテリーの接点が汚れているか、バッテリーに欠陥があるか、バッテリーと充電器の互換性がない可能性があります。接点を清掃するか、バッテリーを交換してください。



充電器のメインプラグをコンセントに差し込みます(充電器の緑色のインジケータランプ(4)が点灯します)。

1. バッテリーの充電が完了したら、充電器からバッテリーを取り出します。
2. 充電器の主電源プラグをコンセントから抜きます。

### バッテリーインジケータ



- 緑 = 十分なバッテリー充電
- オレンジ = まだ小さな作業のみ可能
- オレンジ色に点滅 = バッテリーの充電が必要(ハンドルが振動)



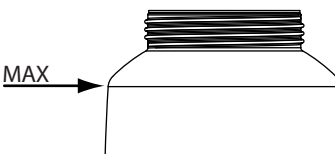
使用開始/ 塗装方法/ 作業の中断/  
運搬/ 使用の停止とクリーニング

**i** バッテリーの充電/交換は余裕を持って行ってください。作業中に突然スイッチが切れると、材料が飛び散ることがあります。

## 9 使用開始

1. スプレーアタッチメントから容器を外します。
2. 準備したコーティング剤を充填します。

**i** 容器に入れすぎないでください

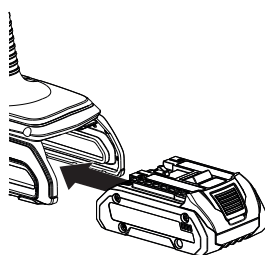


3. サクションチューブにフィルターを取り付けます(図8、1)。
4. 容器をスプレーアタッチメントに差し込み、締めます。
5. スプレーアタッチメントとタービン部を接続します。(図2)

6. バッテリーを挿入します。



バッテリーがしっかりと挿入されていることを確認してください。動作中にバッテリーが外れると、物的損害や人身事故の原因となることがあります。



7. 本機のメインスイッチを入れます(すべてのインジケータが点灯し、ハンドルが振動します)。これで、作業が開始できる状態になりました。

## 10 塗装方法

**i** FinishControlには、2段階式のトリガーガードが装備されています。1段階では、タービンがあらかじめ設定した運転圧力を設定します。さらにトリガーガードを引くと、塗料が供給されます。

スプレーガンのトリガーを引きます。

段ボールの上で噴霧を試し、スプレーパターン、スプレー幅、吐出量、空気量を調整します。

スプレーガンを垂直に持ち、塗装対象との間隔を3~10cmの間で均一に保ちます。(図9)

スプレーガンを、横に、または縦に、均一な速度で動かします。(7.1 スプレーパターンの調整参照) 均一に動かすことで、塗装面のムラが防げます。

塗装対象に当たらない場所で噴霧を開始します。また、塗装対象への噴霧中に中断しないようにしてください。

スプレーミストが大量に発生する場合は、空気量、吐出量、そして塗装対象への距離を修正してください。

## 11 作業の中断

1. 本機のスイッチを切ります。
2. 長時間にわたり休憩する場合は、コンテナを軽く緩め、再び締め直し、コンテナを一度通気してください。
3. ノズル、エアークラップを洗浄します。

**i** 速乾性コーティング剤または2液型塗料を使用している場合は、必ず作業時間中に適切な洗浄剤を使って本機を洗浄してください。時間が経過すると、洗浄が大変になるだけでなく、損傷する可能性があります。  
重要: コーティング剤の可使時間は、加熱によって変わることがあります。コーティング剤のメーカーにご相談ください。

## 12 運搬



注意! キャリーケースに入れて持ち運ぶ時は、容器がしっかりと締まっていることを確認してください。容器に材料が入っている状態ではケースを傾けたり横にしないでください。

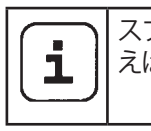
## 13 使用の停止とクリーニング

1. 本機のスイッチを切ります。
2. スプレーガンを分解します。クリック(図2、A)を軽く下に押え、スプレーアタッチメントをタービン部から回転させて外します。



注意! スプレーガンのタービン部は、水や洗浄剤に浸さないでください。湿った布で汚れやほこりをふき取ってください。

3. 容器を回して外します。コーティング剤の残りを元の容器に移します。
4. サクションチューブと容器シールを回して外します。(図10)



スプレーアタッチメントは付属のブラシセットを使えば、特に効果的に清掃できます(例:図11と13)。

5. スプレーアタッチメントのサクションチューブと吸い上げノズルを洗浄ブラシで洗浄します。(図11)
6. 通気口(図8、2)を洗浄します。



注意: スプレーガンのシール、弁、ノズル口、通気口を洗浄する際、尖った金属製の道具は絶対に使わないでください。通気ホースと弁は、溶剤に対する耐性があまり高くありません。溶剤に浸さず、拭くだけにしてください。



7. エアキャップ (図12、1) を分解しやすいように垂直に立てて、取り外します。
8. ユニオンナット (図12、2) を緩めます。
9. エアキャップ (図13、1) とノズル (3) を、ブラシと溶剤または水で清掃します。

	ニードルの隙間を特に丁寧に洗浄してください。(図13の5)
--	-------------------------------

10. 溶剤または水に浸した布で、スプレーガンと容器の外側を拭きます。ねじ (図13、6) には多目的用ブラシを使いません。
11. 部品を再び組み立てます。(「組立」を参照)

### 13.1 組立

	注意! 組立を行う際は、以下の手順に厳密に従ってください。そうしないと、スプレーアタッチメントが損傷する可能性があります。
--	---

1. ノズルシールを、切り込み (スリット) がスプレーアタッチメントの反対側に来るようにニードル部にはめます。(図14)
2. ガンボディのユニオンナット (図15、2) のねじを回し、しっかり締め付けます。
3. エアキャップ (図16、1) をユニオンナットにはめ込みます。エアキャップが両側で完全にはめ込まれたことを確認します。
4. 容器シールを下からサクシオンチューブにはめ込み、フランジの上までスライドさせます。容器シールを軽く回すと、スムーズに動きます。
5. 容器シールの付いたサクシオンチューブをスプレーガン本体に差し込み、回します。

	ガンを組み立てやすくするために、洗浄後、スプレーアタッチメントのOリングにスライドグリス (同梱) をたっぷり塗布してください (図17)。
--	--

## 14 メンテナンス

### 14.1 エアフィルター

	注意! 汚れたエアフィルターを使用したり、エアフィルターなしで本機を作動させないでください。汚れが吸い込まれ、機能に悪影響が及びます。エアフィルターインジケーターはエアフィルターを交換する必要がある場合に赤く点灯します。
--	--

1. バッテリーを取り外します。
2. エアフィルターのカバーを開きます (図18、1)。
3. 汚れの度合いに応じてエアフィルター (図18、2) を洗浄する (汚れを空気で吹き飛ばす) か、交換します。

### 14.2 空気弁

	塗料が通気ホースに浸入した場合は、次の手順に従ってください。
--	--------------------------------

1. 通気ホース (図19、1) をスプレーガンの上から引き抜きます。チェックバルブキャップ (2) を外します。弁 (3) を外します。すべての部品を丁寧に洗浄します。

	注意: 通気ホースと弁は、溶剤に対する耐性があまり高くありません。溶剤に浸さず、拭くだけにしてください。
--	--

2. 弁を、ピンの付いた面を上側に向けてチェックバルブキャップにはめます。(スプレーガン本体にあるマークを参照してください。)
3. スプレーガン本体を逆さにし、チェックバルブキャップを下から取り付けます。
4. 通気ホースを、チェックバルブキャップ、そしてスプレーガン本体の突起に差し込みます。

## 15 トラブルシューティング

トラブル	考えられる原因	解決策
本機が作動しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バッテリーがない、欠陥がある、または互換性がない</li> <li>●本機の温度が上がりすぎた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●充電または交換します</li> <li>●本機を10分ほど冷やし、エアフィルターを点検し、吸気口をふさがないようにします</li> </ul>
ノズルから塗料が出てこない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ノズルが詰まっている</li> <li>●設定された吐出量が少なすぎる</li> <li>●容器シールに損傷がある</li> <li>●容器内が加圧されていない</li> <li>●容器に塗料が入っていない</li> <li>●通気ホースが緩んでいる/損傷している</li> <li>●サクシオンチューブが緩んでいる</li> <li>●サクシオンチューブ/サクシオンチューブフィルターが詰まっている</li> <li>●サクシオンチューブの通気口が詰まっている</li> <li>●弁が詰まっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●洗浄します</li> <li>●量を増やします</li> <li>●交換します</li> <li>●容器をしっかりと締めるか、容器シールを交換します</li> <li>●充填します</li> <li>●差し込むか、交換します</li> <li>●差し込みます</li> <li>●洗浄するか、別のフィルターを使用します</li> <li>●洗浄します</li> <li>●取り外して洗浄します (14.2を参照)</li> </ul>
本機を止めてもノズルから塗料が垂れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エアキャップ、ノズル、ニードルが汚れている</li> <li>●スプレーアタッチメントの組立が正しくない</li> <li>●ノズルが緩んでいる</li> <li>●ノズルが磨耗している</li> <li>●ニードルが磨耗している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●洗浄します</li> <li>●組立をやり直します (13.1を参照)</li> <li>●ジョイントナットを締めます</li> <li>●交換します</li> <li>●ニードルを交換します (サービスセット2434518)</li> </ul>
噴霧が粗い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●吐出量が多すぎる</li> <li>●ノズルが汚れている</li> <li>●コーティング剤の粘度が高すぎる</li> <li>●容器内の圧力が低すぎる</li> <li>●エアフィルターの汚れがひどい</li> <li>●空気量が少なすぎる</li> <li>●エアキャップの取り付けが間違っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●量を減らします</li> <li>●洗浄します</li> <li>●薄めます</li> <li>●容器をしっかりと締めます</li> <li>●交換します (14.1を参照)</li> <li>●量を増やします</li> <li>●エアキャップを正しく取り付けます (図16)</li> </ul>
噴霧にムラがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>●容器内のコーティング剤が少ない</li> <li>●ノズルシールが外れている/摩耗している</li> <li>●エアフィルターの汚れがひどい</li> <li>●サクシオンチューブが緩んでいる</li> <li>●サクシオンチューブ/サクシオンチューブフィルターが詰まっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補充します</li> <li>●ノズルシールを正しく取り付けるか、交換します</li> <li>●交換します</li> <li>●差し込みます</li> <li>●洗浄するか、別のフィルターを使用します</li> </ul>
塗料が流れる(垂れる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コーティング剤の吐出量が多すぎる</li> <li>●距離が近すぎる</li> <li>●使用しているスプレーアタッチメントが適切でない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●量を減らします</li> <li>●吹き付け距離を長くします</li> <li>●別のスプレーアタッチメントを使用します</li> </ul>
スプレーミストが多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●塗装対象との距離が長すぎる</li> <li>●吐出量が多すぎる</li> <li>●空気量が多すぎる</li> <li>●コーティング剤を薄めすぎた</li> <li>●使用しているスプレーアタッチメントが適切でない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●吹き付け距離を短くする</li> <li>●量を減らします</li> <li>●量を減らします</li> <li>●薄め液を少なくする</li> <li>●別のスプレーアタッチメントを使用します</li> </ul>
通気ホースに塗料が入る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●弁が汚れている</li> <li>●弁が破損している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●弁を洗浄します (14.2を参照)</li> <li>●弁を交換します (14.2を参照)</li> </ul>

## 16 アクセサリーと交換部品

### 16.1 アクセサリー

番号	注文番号	名称
1	2430386	スタンダードスプレーアタッチメント(イエロー) (1000ml容器つき) 一般的な塗料すべてに適しています。(別売)
2	2430385	ファインスプレーアタッチメント(ブラウン) (1000ml容器付き) 低粘度の塗料に最適で、より良い仕上げ感を提供します。
3	2430387	ウォールスプレーアタッチメント(1400ml容器付き) 内壁用塗料用。(別売)
4	2324 749	蓋付き容器(1400ml) (別売)

### 16.2 FINISCHCONTROL 4000 (図20) の交換部品

番号	注文番号	名称
1	2454465	エアフィルターカバー
2	2454464	エアフィルター(4個入り)
3	2454642	キャリアバッグ
4	2430409	清掃ブラシセット

### 16.3 ファインスプレーアタッチメント(ブラウン) (図21) の交換部品

番号	注文番号	名称
1	2430385	ファインスプレーアタッチメント(ブラウン) (1000ml容器付き)
2	2434515	エアーキャップ(3個入り)
3	2323934	シール
4	2434520	サービスセット スプレーヘッド(FineSpray)
5	2434518	サービスセットニードル(1.8mm)
6	2434516	チェックバルブセット(通気ホース、チェックバルブキャップ、弁)
7	2434524	サービスセット 吸引システム
8	2434523	容器シール(5個入り)
9	2324248	サクシオンチューブファインフィルター(赤、5個セット)
10	2434525	容器(1000ml)
	2315 539	グリース

### 機器の点検

安全上の理由から、必要に応じた頻度で、ただし少なくとも12か月おきに、専門家に本機の点検を依頼し、引き続き正常に動作することを確認してください。

機器を使用していない場合は、点検を次の使用開始時まで延期することができます。

さらに、その国の(異なる可能性がある)点検規定およびメンテナンス規定にも従ってください。

点検、メンテナンスに関して不明な点がある場合は、WAGNERのサービスまでご連絡ください。

### 廃棄に関する注意

本機の廃棄、およびコーティング剤、洗浄剤の廃棄に関しては、国・地方自治体の消防・電気・安全関連の法規定に従ってください。

### 製造物責任に関する重要事項

1990年1月1日に発効したEU規制に従い、メーカーは、すべての部品がメーカー製であるか、メーカーによって認可されたものであり、機器の組立と操作が正しく行われた場合のみ、製造物に対し責任を負います。他社製の付属品および交換部品を使用した場合、製造物責任の一部または全部が無効になります。極端なケースでは、管轄当局(同業組合および営業監督庁)によって機器全体の使用が禁止されることもあります。WAGNER製の付属品および交換部品を使用しないと、安全規定を満たすことができません。

### 保証規定

日本ワグナー・スプレーテック株式会社(以下「日本ワグナー」)は、本製品の材質上および製造上の欠陥により、正常な使用状態および使用後の完全な洗浄状態にもかかわらず、故障が生じた場合は、以下の保証規定に従い保証いたします。

1. 保証書に記載している保証期間内に、お客様に次の手続きをとっていただくことを条件として、無償で故障品を修理いたします。

(1) お買い上げの販売店に、お買い上げを証明する書面(レシート、納品書等)と保証書を提示すること

(2) 故障品を、保証書とともに販売店が指定する宛先に返送すること

2. 本保証は、日本ワグナーが不具合の原因が次の場合であると判断したときには適用されませんのでご了承ください。

(1) 取扱説明書に記載の使用方法、注意事項に従わない使用がなされた場合

(2) 日本ワグナーまたは日本ワグナーが認めたサービス代理店以外の第三者により不当な修理、調整、改造がなされた場合

(3) 消耗部品の摩耗による故障、および消耗部品の交換

(4) 不十分な洗浄およびメンテナンスによる故障、損傷

(5) お客様による輸送、移動時の落下、転倒、衝撃等による故障、損傷

(6) 地震、火災、落雷、洪水等の自然災害、その他の外部要因によって生じた故障、損傷

### 保証書

<b>WAGNER</b>		保証期間 <b>1</b> 年間	
機種	FC 4000 18V	本体No.	
フリガナ			
貴(社)名			
ご住所			
お電話		納品書No.	
※販売店	店名・住所・電話		
※販売店の印鑑がない場合は、購入時の納品書を貼り付けてください。			





日本ワグナー・スプレーテック  
〒574-0057  
大阪府大東市新田西町2-35

TEL:072-874-3561  
FAX:072-874-3426  
[www.wagner-group.com](http://www.wagner-group.com)

仕様・部品番号は予告なく変更することがありますので、  
あらかじめご了承ください。